BUILD OITAトークイベント

けんせつ小町座談会

in コンパルホール（大分市）

県建設技術センターとおおいた建設人材共育ネットワークは、現役女性技術者の視点から建設業の魅力を発信するBUILD OITAトークイベント「けんせつ小町座談会」を開いた。会場には、建設業関係者や女性技術者、土木・建築業界を志す高校生など約100人が来場。イベントは特別発表と座談会の2部構成で、第一線で活躍する官民の女性技術者8人が、土木・建築のモノづくりの魅力を語った。本音で答える意見交換の様子を紹介する。

第1部 特別発表 ～女性技術者のお仕事を紹介します～

登壇者＝高橋由美さん（㈱青木茂建築工房大分事務所）、中村恵美さん（コマツスマートコンストラクション）、宮脇恵理さん（ミヤシステム㈱）。

高橋　「建築士のしごと」と題し、現地調査から基本・実施設計の進め方、工事見積もりの算出、工事監理業務、現場検査の様子や施工中の監理などを、事例図を交えながら詳しく説明。「この話を聞いて、建築士を目指す方々がもっと増えるとうれしい」と話した。

中村　「建設現場に新しい風を～女性活躍とスマートコンストラクションの全面活用～」と題し、土木現場における生産性向上のためのICT活用、男性だけではなく、情報管理には女性ならではの視点で活躍できることなどを発表し、「現場は常に変化していく中で、仕事の流れを大事に皆さんと一緒に建設業界を支えていきたい」と講演した。

宮脇　「建設業界で活躍できる人材となるには」と題し、担い手不足の課題を抱え、人材を育てるためどうすれば業界の魅力を知ってもらえるか、女性や若者の職域をどう拡大していくかを問題提起。今後、活躍の場を広げるには、「自分の強みを磨き、他業種の方々とのコミュニケーションの場を広げ、県と建設業界を盛り上げていきたい」と語った。

第2部 けんせつ小町座談会

フリーアナウンサーの岩崎朋美さんをナビゲーター、お笑い芸人の野良レンジャーを会場リポーターに迎え、女性技術者8人が本音で答える。

登壇者＝荒木五月さん（㈱日建コンサルタント）、河田梨沙さん（別府市建設部）、高橋由美さん、中村恵美さん、長友悠さん（㈱川原建設）、久野悦子さん（大分県建築士会）、吉田美幸さん（㈱吉高綜合設計）、宮脇恵理さん、吉田美幸さん（大分河川国道事務所）。

―まずは、簡単に自己紹介と仕事内容を

河田　別府市出身。結婚・出産後に市役所に入って12年目。周りの方々に恵まれ、毎日の仕事が楽しい。

久野　大学卒業後、ゼネコンに入社して設計・企画・営業の各部署を転々。その後、個人設計事務所を立ち上げ3年ほど経営。耐火木造建築に特化した医療福祉施設の設計をしたくて現在の建築事務所に入社して5年目になる。そのほか、建築士会の活動も行っている。

吉田　大分市の大分川、大野川など河川の計画、流量や水質調査などを行っている。また、台風接近時は、氾濫する危険性がある場合に洪水予報などの情報を伝達している。

長友　宮崎県出身、入社3年目の24歳。土木工事の施工管理、測量、現場写真の撮影や出来形管理などをしている。

荒木　会社に入社して、上下水道部門に所属し、下水道を担当している。ほかにも、道路工事なども手伝い、自分のスキルを磨いている最中。

高橋　山口県出身で、日本文理大学建築学科卒業後、市内の建築設計事務所に勤め、現在の事務所に入社して11年目。

中村　津久見市出身、12年目。2年前から営業を本職として機械の提案・提供、見学会、セミナー、講演会などでi-Constructionの普及活動に努めている。

宮脇　津久見市生まれ、大分育ち。祖父がトンネル施工の技術者で、父も建設会社を経営。

―仕事との出会いは

長友　就職活動時はあまり土木に興味はなかったが、職種の幅を広げ各社の説明を聞く中で、現在の会社説明会に行く機会があった。土木の現場を見て、第一印象で「かっこいい」と思い、自分でもやってみたいと思った。親や周りの友達は、女性がいるイメージがなく心配したが、実際入ってみると専門的な分野なので難しさはあるが、やはり完成したものを見ると達成感があり、やりがいを感じられることが一番うれしい。日々勉強の毎日だが、現場でも先輩がきちんと指導してくれる。

荒木　中学生の時、街並みについて調べる機会があり、家と街全体が調和した空間をつくり出していることに感動した。自分もまちづくりに興味を持ち、高専の土木科に進んだ。入社して現場に出ると、知らないことばかりだが、やりがいがある。新しい技術がどんどん増え、昔のような男性社会の3Kイメージはなく、技術も現場環境も大きく改善されている。

―女性特有の問題、仕事と家庭の両立など

河田　仕事は1人でするものではないので、苦しい時は周りにも助けを求め協力を得る。思っていることが言える、また言われる環境をつくり、人とのつながりを大事にしていきたい。子育てをしながらとなると、急な変更も多いので「報・連・相」を徹底して、周知してもらうことがコミュニケーションの一環になる。

久野　入社した頃は、女性技術者の立場が確立されておらず、後に続く女性が増えるよう、周りにアピールしながら立場づくりに頑張った。当時、上司から男と同じことをしてもだめだと言われ、女性としてどうあるべきかという考えを持ったうえで、仕事に向き合い、人より多くのモノを見て情報収集することが大事。

―業界内では、女性がどんなところで活躍できるか

中村　現場内でなくても、事務所など離れた場所で、パソコンなどを操作して細かい作業をすることで活躍が可能。また現場でも、男性が気付かない部分もあり、そこで自分の意思を持ち発言する行為は必要だと思う。今後、ICT化が進めば、もっと活躍の場は増える。女性だけの建設会社ができれば面白いと思う。

吉田　河川の防災情報などを収集する業務にも女性技術者が携わっている。河川のインフラを計画するため、流量などを観測し、データ化していく。現在では、職場環境も変化し、女性も働きやすい分野になっている。

宮脇　現在では、かなり幅が広がってきたが、総務や事務だけではなく、現場の皆さんを支える・つなぐ職域が増えるよう視野を広げてほしい。

―今後の夢や目標は

宮脇　後に続く女性がこの業界を目指せるよう、確実に進んでいけるとうれしい。

中村　小・中学生など未来を支える若者が入職してほしい。今後も普及活動にまい進したい。

高橋　今後、若者たちが建設業に入りやすいきっかけづくりに頑張りたい。

荒木　後輩が入ってきた時に、一人前の先輩でいられるよう、知識やスキルを身に付け、人間性も向上させる。

長友　自信を持って現場を回せるような、一人前の技術者になりたい。

吉田　女性が当たり前に働ける職場づくりを目指して、貢献していきたい。

久野　夢を持ってこの業界に入ってきてほしいので、この魅力を見せられるような仕事をしたい。

河田　せっかく形が残る仕事に携われているので、一緒に仕事ができて良かったと言われるよう頑張っていく。

野良レンジャー会場インタビュー

来場していた土木技師の女性は「入社するまでは、男性ばかりのイメージでトイレもないのでは、と思っていたが、女性も使用できる仮設トイレがきちんと整備されていた」、建築の施工管理者を目指して就職予定の女子大生は、「業界のイメージは大変そうな印象で、自分に勤まるか不安もあったが、先輩方の完成時の達成感がやりがいにつながるという話を聞けてよかった」とそれぞれ話した。

参加した現役女性技術者8人

㈱日建コンサルタント
荒木　五月 さん

別府市建設部
河田　梨沙 さん

㈱青木茂建築工房 大分事務所
高橋　由美 さん

コマツスマートコンストラクション
中村　恵美 さん

㈱川原建設
長友　悠 さん

大分県建築士会
久野　悦子 さん

ミヤシステム㈱
宮脇　恵理 さん

大分河川国道事務所
吉田　美幸 さん

ナビゲーター
岩崎　朋美 さん

業界を盛り上げていく　宮脇
ICT化、活躍の場増加　中村
入職しやすい環境つくる　高橋
知識やスキル、人間性も　荒木
一人前の技術者になる　長友
働きやすい職場目指す　吉田
魅力見せられる仕事を　久野
人間関係を大切にする　河田